

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第4号

二〇〇五年六月十三日、「日本民族総福音化運動協議会」が発足した。

これは、韓国で大きな実を結んだ韓国の民族総福音化運動のブランチとして活動していた日本支部が、日本独自のものとして独立したのである。

韓国の民族総福音化運動は、韓国の教会史を飾る金字塔として輝いている。それは、申賢均先生を中心に、韓国の教会が教派の壁を超えて一致協力し、韓国民族の救霊に励んだのである。一九七五年には、韓国の教会史で初めて一五〇万人が集まる大集会をもった（韓国教会百周年祭の時は一〇〇万人集会）。その勢いが韓国中に拡大し、韓国のリバイバルに大きな貢献をした

のである。リバイバルとは、もともと「信仰復興」のことで、教会の中で起こることである。ビリー・グラハムが「クリスチャンにはリバイバル、未信者には伝道」と語るが如く。しかしそれは昔のリバイバルの定義であって、現在は、宣教の定義が変わった様に、リバイバルの定義を変更し、聖霊様による教会の刷新のみならず、その地の人々の爆発的救霊のことを言うのである。

それがインドネシアや中国のリバイバルである。つまりキリスト教国のリバイバルと、キリスト教国以外の国々でのリバイバルは異なる。インドネシアのリバイバルは、教会が刷新され、ただけでなく、イスラム教徒や、

首狩族とも言われたダイヤク族たちが集団で、群れをなして救われたのである。

そこで、世界が「日本のリバイバルのために祈っている」と言う時、その祈りは、一パーセントの日本のクリスチャンが刷新されますように、というのではなく、「二億三千万人の日本人が、爆発的に、群れをなして救われますように」という祈りなのである。

今、日本は、世界中の教会が、「日本のリバイバルのために」祈っていることを知るべきである。日本人が爆発的に救われることを願い、祈っているのである。

まずお隣の韓国の教会が、日本人一億二千万人の救霊（今は、一億三千万人の救いのためにと

日本民族総福音化運動を推進せよ

—主よきたりませ—

総裁 奥山 実



言う教会もある)のために、と祈って下さっている。さらに中国の地下教会(家の教会という表現もあるが、家の教会の中にも、政府の管理下にある公認教会に入っているグループもある)ので、地下教会とした)の人々が、日本のリバイバル、つまり日本人の爆発的救霊のために祈っている。それは、日本の教会から聖書を受け取った彼等が、日本のクリスチャン人口が、僅かパーセントと聞いて、真剣に日本人の救霊のために祈っているのである。またミャンマーの山地族のカチン族のクリスチャンたちが、日本のリバイバルのために祈っている。インドのナガランド族のクリスチャンたちも祈っている。これほど多くの国々のクリスチャンたちが日本のリバイバルのために祈っているというのは、今までにない。祈りは聞かれる。主は日本にリバイバルを与えて下さるのは確実である。

この様な時に、日本に日本民族総福音化運動が始められたことは注目すべきことである。これを始められたのは主である。我々はただ、主に用いられ

み業に用いられることは我々の特権である。

私が救われたのは、日本基督教団所属の小さな長老教会で求道していた時で、主イエスの十字架の死が、私の罪の贖いであったことを、聖霊様の助けによって知った。それは夜道を歩きながらのことで、夜空に向かって「イエス様、信じます！」と叫んだ。その時、「罪ゆるされた！」という喜びが、心の底からわき上がり、飛び上がったと思う。あまりの感激でよく覚えていない。丁度、井戸を掘っていた時、水が一気に吹き出した様な喜びであった。それが聖霊体験である、と教えてくれる人は誰もいなかった。あとで聖霊体験であることがわかった。その時から、全く一八〇度人生が変わり、「これほど素晴らしい救いならば、この福音で人を救おう」と献身したのである。

だから私の献身は、主イエスの福音で人を救うことであり、「私の献身で、一人救われたら幸いだ」と思い会社を辞めた。そして神学校に行ったのである。一人救われたら幸いだ、と思っていたが、数えきれない人々が救われた。そして今も救われている。その後京都で学生伝道し、福音自由教会で最大の教会となったが、インドネシアへの宣教のため、海外へ派遣された。そして世界宣教に関わるようになった。

こうして世界に目を開かれた私は、世界宣教の達成のために主に用いられたいと願うようになり、今に至っている。つまり、「二人救われたら幸いだ」から、「世界宣教の達成」のために主に用いられたい、と願い、祈るようになったのである。そして「世界宣教の達成」とは、世界に福音が満ちること、そして世の終わりとなる(マタイ二四・一四)。つまり我々の地上の宣教と、主の再臨は関係があるのである。そして主はいっさいを新たにし、新天地が来る。

世界中に福音を満たす、ということに於いて、日本の教会のなすべきことは、「日本中に福音を満たすこと」である。つまり、日本民族総福音化は、主のみこころなのだ。

このように、日本中に福音を満たすことは主のみこころである。日本伝道の目的は、我々の欲を満たすことではない。主のみこ

ころを行なうことである。我々は、自己満足のために伝道して

いるのではない。主イエスの御命令に従うことである。我々は、韓国の教会のように、教派の壁を超えて、主の目的達成のために励みたいものだ。

神学的には、各教派強調点の違いはあっても、宣教と救霊では一致できる。日本の教会が一つとなって、愛する日本人の救霊に励もうではないか。それが日本民族総福音化運動である。その目的達成のために、多くの教会、教派、団体、運動との協力を祈り求めている。

マラナタ、主よ来りませ!

